

「子ども、保護者との信頼関係を大切に」

行成 哲弘

ゆきなり小児・矯正歯科（長崎市開業）

長崎小児歯科臨床医会会長をしております行成哲弘です。福岡歯科大学を卒業後、同大学で矯正歯科、長崎大学歯学部で小児歯科を学び長崎市の北部でゆきなり小児・矯正歯科を開業して早23年になります。私の診療スタッフとして歯科医師は私だけ、常勤のスタッフ5名、非常勤3名で、内訳としては小児歯科認定歯科衛生士が3名、歯科衛生士が2名、受付歯科助手が3名です。多くの小さいお子さんを診るために初診の年齢を中学生までと限らせていただいています。

開業年数が長くなると誰しも直面することですが、初診時は小さなお子さんでもある程度の年齢になり、一般歯科を受診したほうが良くなります。その場合は卒業という形をとらせてもらい、小児歯科という専門性を保っています。現在では以前受診されていたお子さんが、御自身のお子さんを連れて受診されることも多くなり、小児歯科医としての幸せを感じています。12年前に移転開業しましたが、少しでもお子さんの緊張がほぐれるように建物内装もカラフルに、待合室も天井を吹き抜けにし、開放感があるようにしました。また安全に楽しく遊んでもらえるように待合室に隣接して屋外に遊具施設を設置しており、時々子どもたちの歓声が上がっています。

開業当初よりお子さんと私どもの信頼関係を築くために母子分離が原則です。移転開業の折には保護者の不安を取り除くために診療室内にはテレビカメラを設置し、待合室のモニターで中の様子を見ることができるようになりました。このことにより保護者の母子分離への不安を少しは取り除くことができているようです。少しでも楽しい雰囲気を出すために窓際にぬいぐるみを置き、診療室のユニットを全て色違いにしています。お子さんをユニットに誘導するのも「どの色に座る?」というように好みを尊重しています。

診療室内にも本と簡単な木のおもちゃを置いてあるコーナーがあり、手のあいたスタッフや私が小さなお子さんと

遊んでいます。私がお子さんと遊ぶことは診療を円滑に進めるためにも、とても大切なことと考えています。いっしょに遊んだ小さなお子さんは、それだけで私への態度が変わってきます。それでも治療を嫌がるお子さんもいますが、レストレーナーは極力行わないようにしており、ここ3年間で1回しか使用しておりません。開業当初と比べ齧蝕の程度も本数も減ってはいますが、やはり治療が必要なお子さんもいます。緊急治療が必要な場合は低年齢児でも治療しますが、緊急を要しない場合はその必要性が理解できる3歳半まで待つようにしています。

診療、指導の工夫として保護者、お子様への説明はなるべく目から入るようなわかりやすい説明を心がけています。そのためにさまざまな説明用のファイルを作り、ブラッシング指導には独自で製作した年齢別のビデオを活用しています。このビデオは私が歯科園医、歯科校医をしている幼稚園、小学校でも役立っています。情報発信として2000年3月より私自身が製作したホームページを開設しており、現在ではインターネットで調べ受診される方も増えています。ホームページには過去にメールで受けた質問の回答を載せた「よくある質問コーナー」、私の診療所で配布している資料などもダウンロードできるようにしています。

土曜日の午後は矯正診療のみとしており、患者様自身の負担を減らすためにお口の中に装置を入れる治療期間をなるべく短くしようと心がけています。説明には実際の治療例を用い、治療内容や期間、大まかな金額などをお話します。本格矯正治療が必要な場合には資料採取、装置のつけ方、装置が付いた後の歯みがきの仕方、装置の外し方まで掲載したオリジナルのDVDを差し上げています。これらの資料は全てホームページに掲載していますので、興味がある方はご覧ください。私の名前が珍しいものですから、ひらがなで「ゆきなり」と検索すると簡単です。

